



12月1日は「世界エイズデー」～レッドリボン、知っていますか?～

レッドリボンは、「世界エイズデー」キャンペーンをはじめ、HIV/エイズに関する運動の世界的なシンボルです。

2020年末現在、世界では約3,760万人のHIV感染者およびエイズ患者がこの病気とたたかっています。

日本では、2020年に1,095件の新規HIV感染者・エイズ患者の報告があり、これまでに報告された感染者・患者数の累計は32,461件を数えています。

HIV感染症/エイズの治療方法は大きく進歩し、今では、適切な治療を続ければエイズの発症を防ぐことができます。エイズはもはや「死の病」ではありません。多くの方が治療を受けながら社会で働き、学び、生活しています。

HIV感染を心配する人が気兼ねなく検査を受けられるように、また、HIVに感染している人が社会の中で安心して生活していくためには、ひとりでも多くの方がエイズを正しく理解し、差別や偏見をなくすことが大切です。



HIV検査は全国の保健所で無料・匿名(名前を言わなくていい)で受けられます。熊本市のHIV検査についてはこちら➡

HIVの感染力は弱く、性行為以外の社会生活のなかでうつることはまずありません。HIVは主に3つの経路で感染します。

① 性行為感染

防ぐには?



コンドームを正しく使用するなど、セーフター(より安全な)セックスをする。
※早くから適切な治療を続けることで、他の人への感染を防ぐことができます。
検査・治療を受けることは予防にもつながります!

HIVを含む血液や精液、膣分泌液等が、性器や肛門、口の粘膜や傷口と接触することで感染します。

② 血液感染

防ぐには?



覚せい剤等の薬物使用時の注射器の使い回し等で、HIVを含む血液が体内に入ることによって感染します。

麻薬や覚せい剤を使わない。カミソリや歯ブラシなど、血液が付着するものを共用しない。
※日本の医療現場では、採血や献血などに使用する注射針は使い捨てもしくは滅菌済みなもので、心配ありません。

③ 母子感染

防ぐには?



HIVに感染している母親から、妊娠中や出産時、授乳時に、赤ちゃんに感染することがあります。

予防治療薬の服用や、帝王切開による出産(自然分娩を避ける)、人工栄養(ミルク)にする、など適切な対処により、赤ちゃんへの感染はほぼ抑えることができます。

期 間		2021年 45週		2021年 46週	
		11/8~11/14		11/15~11/21(最新)	
疾患名	疾患の増減	報告数	定点当り	報告数	定点当り
インフルエンザ	➡	0	0.00	0	0.00
RSウイルス感染症	➡	14	0.88	15	0.94
咽頭結膜熱(プール熱)	➡	1	0.06	4	0.25
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	➡	2	0.13	3	0.19
感染性胃腸炎	➡	100	6.25	96	6.00
水痘(みずぼうそう)	➡	0	0.00	1	0.06
手足口病	➡ 警報レベル!!	72	4.50	90	5.63
伝染性紅斑(りんご病)	➡	0	0.00	0	0.00
突発性発しん	➡	9	0.56	9	0.56
ヘルパンギーナ	➡	8	0.50	8	0.50
流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	➡	0	0.00	1	0.06
急性出血性結膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
流行性角結膜炎(はやり目)	➡	1	0.20	2	0.40
細菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
無菌性髄膜炎	➡	0	0.00	0	0.00
マイコプラズマ肺炎	➡	0	0.00	0	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	➡	0	0.00	0	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	➡	0	0.00	0	0.00